

“デザインサイエンス”，その文脈と胎動

2009年5月22日(金)、慶應義塾大学理工学部矢上キャンパスを会場として、「“デザインサイエンス”，その文脈と胎動」が開催されました。本活動は、日本デザイン学会 デザイン理論・方法論研究部会 (DTM)、日本機械学会 Design 理論・方法論研究会、日本設計工学会 設計理論・方法論に関する研究調査分科会との連合による主催，慶應グローバル COE の共催により行われました。

はじめに、本活動の開会にあたり、DTMのアドバイザーボードである森典彦先生よりご挨拶をいただきました。第1部「“デザインサイエンス”の文脈と胎動」では、デザインの理論や方法論の在り方に関する活発なディスカッションが行われ、今後の活動成果を結実させる「デザイン科学ハンドブック(仮称)」の出版に関する議論もできました。講演としては、本部会主査の松岡、日本機械学会 Design 理論・方法論研究会主査の村上存先生(東京大学)、日本設計工学会 設計理論・方法論に関する研究調査分科会主査の綿貫啓一先生(埼玉大学)により、デザイン科学の枠組み構築の必要性、デザイン・設計における理論・方法論の可能性、デザインにおける暗黙知の重要性等に関する説明が行われました。第2部、「新パラダイム：時を紡ぐ“タイム軸シス・デザイン”の提唱」におきましては、松岡、小林昭世先生(武蔵野美術大学)、五十嵐浩也先生(筑波大学)、脇田玲先生(慶應義塾大学)より、多様場や場の時間軸変動への対応を可能とするタイム軸シス・デザインのコンセプトやその理論・方法論が紹介され、五十嵐先生より「タイム軸シス・デザイン研究部会」の発足に関わる提案も行われました。

本活動には、社団法人日本インダストリアルデザイナー協会(JIDA)会長の浅香嵩氏をはじめ、デザインに関わる研究・教育者の方々(関東学院大学、慶應義塾大学、静岡大学、東京大学、文化女子大学、室蘭工業大学、Hansung University、Monterrey Institute of Technology and Higher Education)、実務者の方々(エンジニアス・ジャパン、小島デザイン、ジャストシステム、スズキ、横浜ゴム)、学生を含む約60名の参加者にお越しいただき、デザイン理論・方法論やデザイン塾に関する様々なご意見をいただくことができました。ご参加いただきました皆様に、この場をかりまして厚く御礼申し上げます。



森典彦先生によるご挨拶



村上存先生による講演の様子



会場の様子